

札幌都心商業地区

— 札幌駅地区の商業集積と大通地区商店街の変容 —

札幌東高等学校 金森正郎

1 都心商店街の形成

1) 大通地区

丸井今井と三越札幌店は南1条通商店街の中核となる2つの百貨店です。呉服商を営んでいた丸井今井が百貨店を開業するのは1916年のことで、三越札幌店の開業は昭和に入った1932年のことでした。

狸小路は街路区画の中に設けられた東西の小路沿いに商店が集積した伝統的な商店街です。1丁目から10丁目まで続く狸小路のうち7丁目までの間、1959年にアーケードが設置されています。

南1条通商店街と狸小路を中心とした商業地域が札幌の伝統的商業集積地である大通地区です(図1)。

2) 札幌駅地区

大通地区と並ぶ札幌のもうひとつの中心商業地区が札幌駅地区です(図1)。

札幌駅地区には、1906年に開業した五番館百貨店がありましたが、1970年代に東急百貨店とそごう百貨店が駅前に進出するまでは中心商店街といえるほどの商業集積はなかったようです。

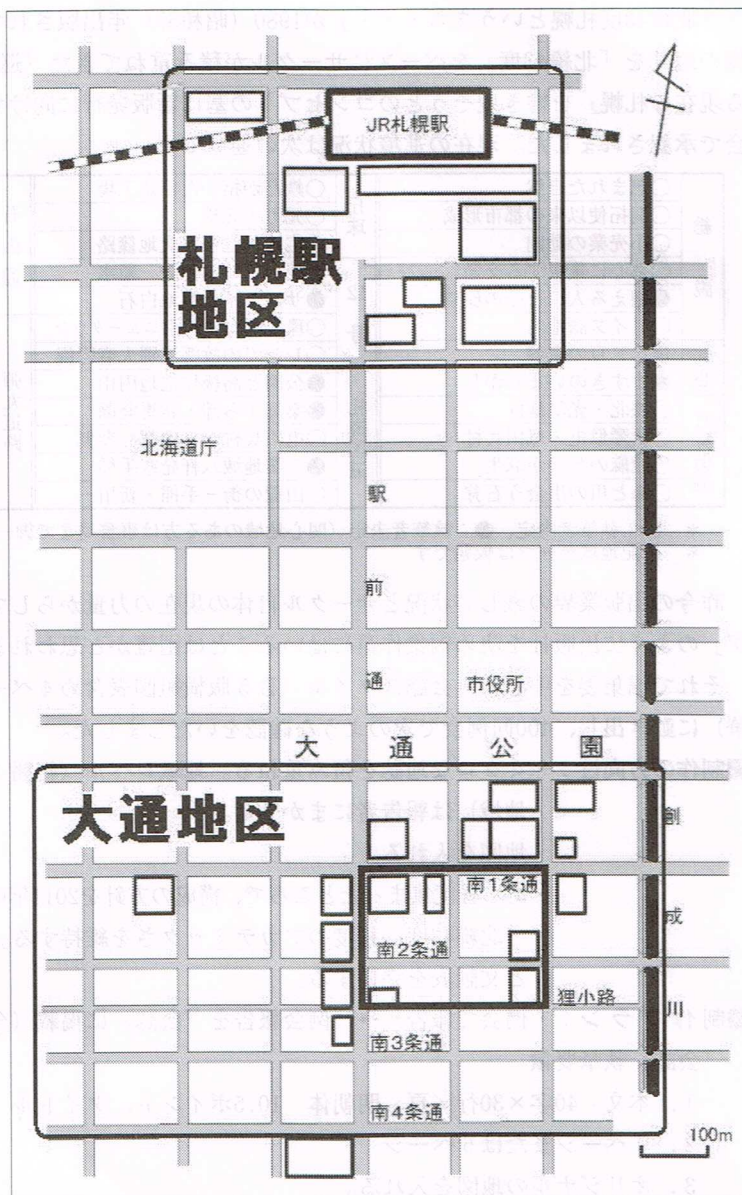


図1 札幌都心商店街の概要

図中の□は百貨店、スーパーなどの大型店。太線は「黄金回路」。

2 大通地区における寄り合い百貨店と地下商店街の開業

1) 寄り合い百貨店

1972年の冬季オリンピックが札幌開催に伴う再開発は都心商業地区にとっても大きく影響しました。特に、駅前通の拡幅工事と地下鉄の開業は大通地区の商業を大きく変えました。寄り合い百貨店と地下商店街の出現です。寄り合い百貨店は大通地区の立体化をもたらす一方、地下商店街は買い物客の流れを大きく変えました。

最初の寄り合い百貨店はそうごデパートで、開業は1959年です。ファッションテナントとして三愛が出店したのが特徴です。1962年には狸小路3丁目にサンデパートが出店します。サンデパートは、テナント数が50を超える大規模な寄り合い百貨店で、当時買い物客の流れの中心となりました。

1963年から1971年にかけて、駅前通を大通以北と同じ36m幅に拡張すると同時に再開発が進められます。この再開発によって改造ビルといわれる寄り合い百貨店ができることになりました(表1)。丸実デパートと中心街デパート、エイトです。さらに、防災建築街区造成ビルとしてCOSMOと4丁目プラザが開業します。これらの寄り合い百貨店の建設によって、それまで低層の商店街であった南1条通以南の商店街で立体化が進むことになりました(高平 1980)。

狸小路2丁目の金市館がビルを建築して百貨店化したのは1970年のことでした。1970年代はじめ頃の買い物客は、三越札幌店、サンデパート、金市館、丸井今井百貨店の4店を回遊していて、これらの4店舗を結んだ通りは、「黄金回路」(図1)と呼ばれていました(増田 1980、札幌市教育委員会編 1999)。

2) 地下商店街の開業

冬季オリンピック直前の1971年に、ポールタウンとオーロラタウン、2つの地下商店街が開業しました。地下街の位置が駅前通と大通公園の下にあたるため、買い物客の流れを地上の商店街と奪い合う形になっていきました。「黄金回路」は衰退(増田 1980)、狸小路商店街と駅前通商店街に最も大きく影響を与えたようでした。

3 札幌駅地区における商業集積の進展

1) 百貨店の開業

札幌駅地区の商業は、札幌で最も古い百貨店である五番館が中心でしたが、1970年代に2つの百貨店が進出し大型店を中心とした商業集積を見せます。1974年開業の東急百貨店と1978年開業の札幌そごうです。しかし、これらの百貨店を中心とした札幌駅地区の商業は、大通地区に競合するまでには成長していなかったようです(増田 1980)。

札幌そごうは2000年に閉店しました。五番館は1980年代に入り西武百貨店と提携し五番館西武に、さらに1997年には西武百貨店札幌店になりますが、2009年に閉店しました。

表1 1960年代と1970年代に大通地区で開業した大規模店

店舗名	位置	開業年
丸実デパート	南2西3	1966
長崎屋札幌店	南1西1	1967
中心街デパート	南2西4	1968
COSMO	南2西4	1969
金市館ビル	南3西2	1970
エイトビル	南3西4	1970
4丁目プラザ	南1西4	1971
松坂屋札幌店	南4西4	1974
マルサ	大通西1	1974
札幌パルコ	南1西3	1975
丸井今井大通館	大通西2	1975

金森(2009)による。

2) 札幌駅付近鉄道高架化事業

ステラプレイスや大丸札幌店などとJRタワーやパセオやアピアなどの地下商店街は1978年にはじまる札幌駅付近の鉄道高架化事業により出現した商業施設です。1989年の地下商店街パセオの開業は地下商店街の雰囲気を大きく変えました。華やかなファッションテナントが多く出店したのです。

1972年開業の地下商店街であった札幌駅名店街跡に、飲食店街とファッションテナントを中心としたアピアが開業したのは1999年です。2000年のそごう百貨店閉店した後は、家電量販店を核店舗にした寄り合い百貨店エスタとなります。

JRタワーの開業は2003年でした。JRタワーはテナント、オフィス、シネマコンプレックス、ホテルを含んだ地上38階、地下4階の複合ビルで、商業施設部分には、核店舗のひとつとして大丸札幌店が進出し、ファッションビルのステラプレイスとエスタなどから構成されています。地下部分がパセオとアピアの地下街と接続していて、札幌駅はひとつの巨大な商業施設へと変貌したのです。

4 大通地区商店街の変容

1) ファッションビルの開業

1990年代以降の大通地区では、主に既存の店舗の入れ替えや建て替えによってファッションビルの開業が進みます(表2)。

また、路面店も、既存店舗への入居という形で入れ替えが進むことになり、1970年代までに形成された従来か

表2 1990年以降の大通地区における大型ファッションビルの開業

店舗名	位置	開業年	以前の店舗名
アルシュ	南3西4	1990	エイトビル
ビヴォ	南2西4	1995	中心街デパート、ダイエー
ラ・ガレリア	南2西2	1995	
丸井今井本店南館	南1西1	2002	長崎屋札幌店、ビッグオフ
札幌アルタ	南1西2	2002	
札幌シャンテ	南1西1	2004	
札幌パルコ新館	南2西3	2005	丸実デパート、三愛、マルサ2
丸井今井別館	大通西1	2007	マルサ

金森(2009)による。

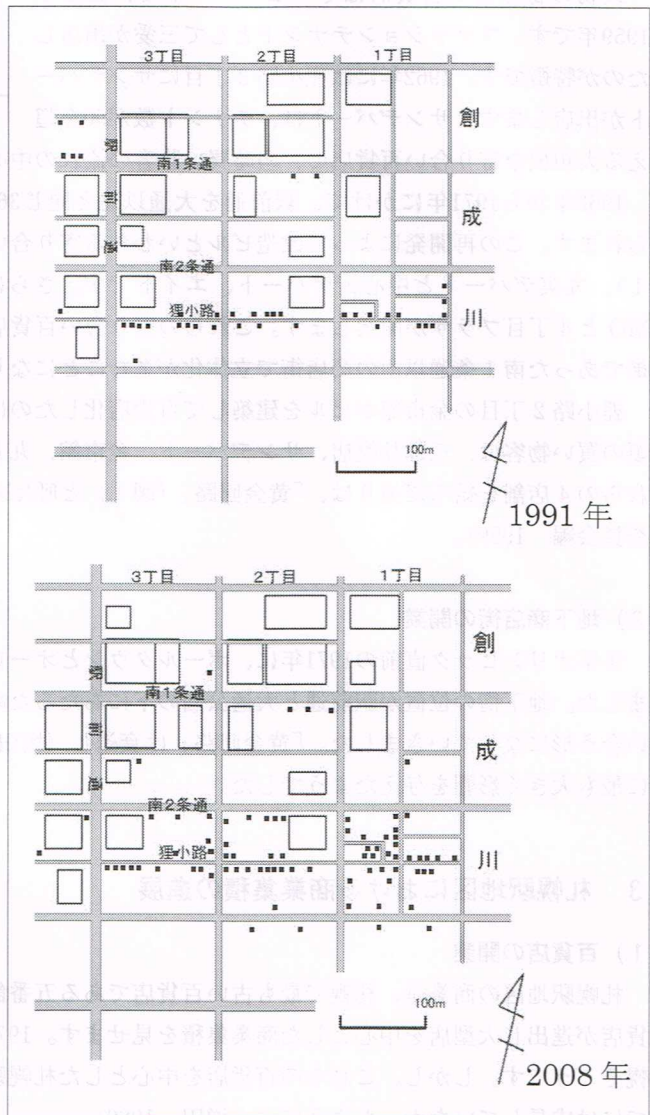


図2 大通地区におけるファッション小売店の分布の変化(1990年、2008年)

金森(2009)による。

らの基本的な商店街の景観を維持したままの変容を進んでいます。再開発事業によって大きな景観変化を伴いながら商業化した札幌駅地区とは対照的です。

2) 路面店の増加

1990年以降の大通地区のもうひとつの変化として、ファッション路面店の増加があります(図2)。ファッション小売店舗が狸小路だけではなく、面的にも広がっていることがわかります。

これらのファッション路面店の多くは、旧来からある店舗に入居する形で出店しています。このことによって、大通地区の商店街が空き店舗が続くいわゆる「シャッター通り」にはならず、従来からの商店街の景観を大きく変えることなく変容させることになっています。

5 北海道商業の中心としての札幌都心商業地区

札幌駅地区の商業集積の進展によって、札幌都心商店街は2つ核をもつことになりました。このことは新興の商業地区である札幌駅地区と伝統的な旧来からの商店街である大通地区との対抗という視点から語られることが多くなりました。しかし、交通の変化は札幌都心への北海道一円からのアクセスを向上させており、札幌都心商業地区は北海道の中心商店街としての意味が強くなっています。

札幌都心商業地区の変化は、札幌最大の商店街としてだけではなく北海道全体の商業の変化の中で理解されていかなければならないのでしょうか。

【参考文献】

- 金森正郎 2008. ファッションストリートからファッションタウンへー変化する札幌都心商店街. 『季刊札幌人』(札幌グラフィックコミュニケーションズ) 第16号.
- 金森正郎 2009. 札幌都心商店街の形成と変容. 金沢大学文学部地理学教室編『自然・社会・ひとー地理学を学ぶー』古今書院.
- 金森正郎 2009. 時間を地図にするー北海道各地と札幌都心の時間距離ー. 『季刊札幌人』 第22号.
- 札幌市教育委員会編 1986. 『狸小路』北海道新聞社.
- 札幌市教育委員会編 1999. 『札幌の商い』北海道新聞社.
- 高平順夫 1980. 空へのびる都心ー駅前通と大通. 札幌地理サークル編『北緯43度ー札幌という街…』清水書院.
- 沼田武 1991. 都心商店街ー一番街から四番街. 札幌市教育委員会編『札幌の通り』北海道新聞社.
- 増田忠二郎 1980. 押し寄せる本州資本の波ー小売業の動向. 札幌地理サークル編『北緯43度ー札幌という街…』清水書院.